



Corporate
Responsibility
Report



日本IBM コーポレート・レスポンシビリティ・レポート2009

日本アイ・ビー・エム株式会社 会社概況

会社名称：日本アイ・ビー・エム株式会社
会社設立年月日：1937年（昭和12年）6月17日
本社所在地：〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
代表者氏名：代表取締役 社長執行役員 橋本孝之
資本金：1,353億円
株主：有限会社アイ・ビー・エム・エイ・ビー・ホールディングス(100%)
事業内容：情報システムに関わる製品、サービスの提供
売上高：1兆1,329億3,200万円
決算期：12月31日
社員：

	合計	男性	女性
社員数	16,111名	13,064名	3,047名
平均年齢	40.7歳	41.6歳	36.8歳
平均勤続年数	15.3年	16.1年	11.9年

(2008年12月31日現在)

業績の推移：

	売上高	経常利益
2008年度	1兆1,329億3,200万円	1,543億3,100万円
2007年度	1兆1,926億1,100万円	1,540億4,800万円
2006年度	1兆1,932億8,700万円	1,390億4,300万円

	税引前当期純利益	当期純利益
2008年度	1,577億7,100万円	967億9,700万円
2007年度	1,559億8,000万円	940億2,100万円
2006年度	1,313億6,600万円	797億9,600万円

編集方針

- このレポートは、IBMコーポレーションの「2007-2008 Corporate Responsibility Report」の内容を補足して、日本IBMのCSR活動について報告するものです。
- IBMコーポレーションのレポートは<http://www.ibm.com/ibm/responsibility/>からご覧いただけます。
- レポートの対象期間は、原則として2008年中としており、一部については2009年3月までを含みます。

Contents

ご挨拶	1
次世代に向けたIBMの新しいビジョン 「A Smarter Planet」	2
特集 次代を担う人材の育成と 地球規模の社会貢献を目指して	4
CSRの取り組み	6
経営の基盤 ● インテグリティ ● リスクマネジメント ● 情報セキュリティ ● プライバシー	7
お客様とともに	12
ビジネス・パートナー様とともに	14
購買取引先様とともに	15
社員とともに ● 人材育成 ● ワークフォース・ダイバーシティ ● 社員の安全衛生と健康(ウェルビーイング)	16
社会とともに ● 教育分野への支援 ● IT技術を利用した社会貢献 ● 学術／文化の支援 ● 社員のボランティア活動の支援	22
環境への取り組み ● 環境マネジメント ● お客様への貢献 ● 社会との協働	30
CSRに関する主要な指標(KPI)	36

ご挨拶

情報技術と通信の絶え間ない発展により、世界はスモール化、フラット化が進み、昨年来、米国に端を発した経済危機は瞬く間に世界中に広がりました。グローバル化の加速は、地球環境問題や食糧危機、人口爆発など、社会さらには地球規模で解決策が求められるマクロな課題を顕在化させ、政府機関はもとより、企業においても果たすべき役割が、今一度、問われています。

IBMは、創業時より「良き企業市民たれ」という一貫した理念に基づき、企業倫理の徹底やダイバーシティーの推進、環境への配慮など、企業の社会的責任(CSR)に関する活動に積極的に取り組んできました。本年1月、私は社長に就任するにあたり、今年を「次代への礎を築く年」と位置づけました。基本に立ち返り、長年にわたって全社員で築いてきた社会からの信頼を一層高めることを目指して、セキュリティやコンプライアンスの遵守をはじめ、信頼と責任ある企業行動に引き続き全力で取り組んでまいります。

昨年、IBMでは地球がより賢く進化していくことを示す「A Smarter Planet」という新たなビジョンを掲げました。これは、世の中のあらゆるものがデジタル機能を備え、相互接続されていく環境を、より高度なITの活用を通じてますます知的にしていくことで、お客様のビジネス、さらには交通、環境、エネルギー、医療といった社会に関わるさまざまな課題を解決していこうという、IBMが提唱するこれからの世界の在り方です。

この“賢い地球”の実現には、それぞれの企業や個人の努力はもちろん、業種、業界を超えたコラボレーションや政府、教育機関との連携により、将来のあるべき姿を描き、そのビジョンを着実に実践していくことが不可欠です。当社では、お客様や関係機関と広く協業し、IBMが世界中で培ってきたテクノロジーや経験をお届けすることを通じて、社会や人々の生活を豊かにし、誰もが安心して暮らしていける持続可能な賢い地球づくりをご支援してまいります。

このレポートを通じ、IBMのCSR活動の考え方や取り組みについてご理解いただき、あわせて忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

日本アイ・ビー・エム株式会社
代表取締役社長

橋本孝之



次世代に向けたIBMの新しいビジョン

「A Smarter Planet」



近年のグローバル化の波は世界をフラット化し、日々急激な変化を続ける環境の中、私たちは経済的、技術的、社会的な結びつきを強めつつあります。そして今、フラット化の先にある新しい時代が幕を開けようとしています。技術の発展により、私たちはほぼすべての物や仕組みをデジタル化し、相互に接続することで、社会や経済活動、そして地球も、より効率的で洗練されたものになることが可能な時代を迎えているのです。

それと同時に、地球上には、いまだ解決できていない多数の問題があります。例えば、交通渋滞による日本全国の損失時間は年間約38億時間に上り、金額に換算するとおよそ12兆円ともなり、GDPの2%以上に相当します*1。また、世界の水消費量は1900年からの100年間に6倍になり、人口増加の倍のスピードで増え続けています*2。

これらは、次の世代のために私たちが解決しなくてはならない課題のほんの一部にすぎません。

IBMは、世の中の非効率や無駄を削減し、新しい時代の可能性を確実に未来へつなげることを目標として、2008年11月、「A Smarter Planet」と名づけたコーポレート・ビジョンを発表しました。これは、私たちの大切な地球を守りながら、Smarter、つまり「より

賢い」地球への進化を支援するという考え方です。

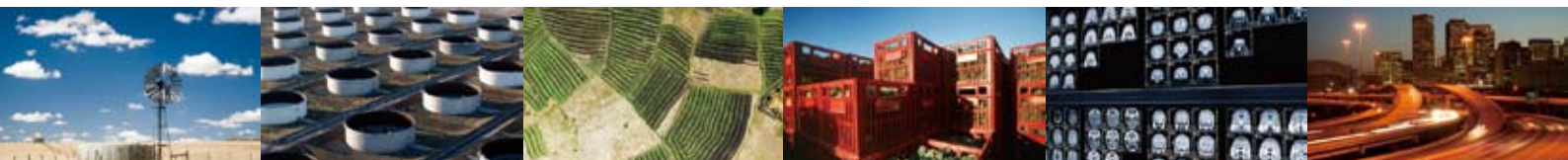
なぜ今、そのことが可能なのでしょうか？

第一に、世界は機能化 (Instrumented) されてきているからです。

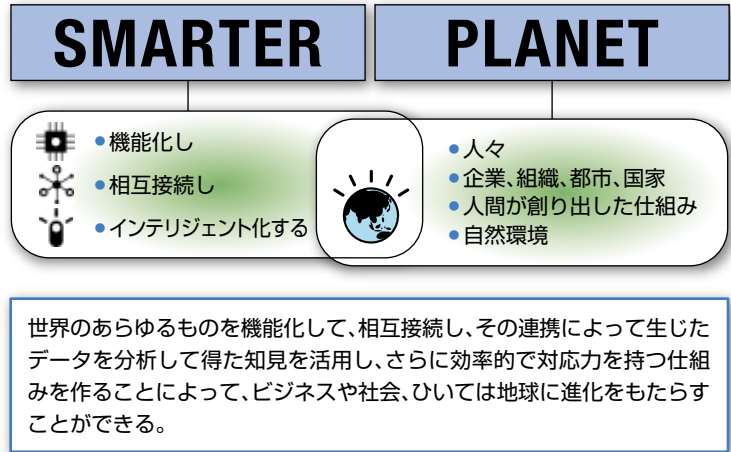
2010年までにはヒト1人につき10億個ものトランジスターが存在し、1個あたりの費用は1,000万分の1円以下という世界が現実のものとなります。サプライ・チェーン、医療ネットワーク、都市、そして河川などの自然環境も含むあらゆるものにセンサーやICチップなどが組み込まれ、状態がリアルタイムで計測、感知、観測できるようになります。

第二に、世界は相互接続 (Interconnected) され、ますます深くつながってきているからです。

間もなく20億もの人が、インターネットを介してつながりを持つようになります。また機能化されたシステムや機器による、新しい形の連携も可能となります。車、電化製品、カメラ、道路、パイプラインはもとより、医薬品や家畜類なども含めてこれらの相互作用により生まれる情報量は、史上空前のものとなるでしょう。



IBMの提唱する新しいビジョン



第三に、すべての物がインテリジェント化 (Intelligent) していくからです。

強力なコンピューター・システムと「クラウド・コンピューティング」が、インターネットや携帯電話、PCなどのユーザー端末の使用により発生する大量のデータの統合、プロセス、モデリング、予測、分析の迅速な処理を可能にします。

あらゆるものから収集した膨大なデータを分析し、そこから得られる革新的な洞察を活用すれば、非効率の可視化や将来的なリスクの予見が正確かつ迅速に行えるようになる。私たちは、そんな未来予想図を描いています。

IBMは、先進的な技術や知見を広く社会に提供すると同時に、幅広い組織や団体、個人との協業を通じ、それぞれの強みを活かしながら、地球全体の「スマート化」に向けて活動を進めています。

具体例を挙げれば、スウェーデンのストックホルム市では、交通ラッシュ時間帯に渋滞地域に出入りする車に「渋滞課金システム」による税を課すことによって、「スマート」な交通システムを展開しています。無線認証 (RFID) 技術や自動文字検出機器を駆使し、車の流れを阻害することなく、交通量に応じた変動的な課金を実現しています。結果として渋滞が20%緩和さ

れただけでなく、排気ガスも12%削減され、公共交通機関の利用率も高まりました。

日本でも、2008年に京都大学と共同で、数百万台の車の動きを一台一台のレベルまで再現する大規模交通シミュレーターを開発しました。その活用により、今後、渋滞だけでなく燃油使用量や二酸化炭素排出量も削減できる「スマート」な交通社会実現への貢献が可能になると考えます。

他にも、マルタ共和国では電力・水道事業会社と協業し、高性能の電子メーター機器と最新ITアプリケーションの統合によるスマート・グリッド・ユーティリティ導入プロジェクトを推進しています。これにより、遠隔からのモニタリング・管理、メーターの読み込み、電力の消費状況に応じた課金などが可能となり、また利用者はインターネットで日々の消費パターンを把握し、電力や水を無駄なく使用できるようになります。

世界中で行っているこのような活動の積み重ねが、ひいては地球規模の進化につながるとIBMは考えます。

*1 出典：国土交通省道路局 平成17年度道路行政の達成度報告書／平成18年度道路行政の業績計画書 (2006年6月)

*2 出典：World Meteorological Organization (WMO) Report (1997年9月)



特集

次代を担う*人材の育成と 地球規模の社会貢献を目指して

— Corporate Service Corps (IBM海外支援チーム) が活躍中

グローバルな時代に活躍するリーダーとなる人材を育成すると同時に、新興諸国の社会経済的な発展に貢献することを目的としたIBMの新しいプログラム「Corporate Service Corps (IBM海外支援チーム)」が2008年から始まりました。

さまざまな地域から選抜されたスキルやノウハウを有したIBM社員で構成されるチームを新興国に派遣し、NGOと連携して現地の企業や非営利組織などを支援する取り組みで、2010年までの3年間で総勢1,200名が参加します。

全世界で一つの組織となり、 提供価値を最大化するために

フラット化が進む21世紀の世界において、IBMは競争力向上と経営効率化に向けて、グローバルに統合された企業 (Globally Integrated Enterprise: GIE) への変革に取り組んでいます。従来型の多国籍企業のような子会社の集合体ではなく、世界で一つの組織として経営資源を地球規模で最適化し、お客様として社会に提供できる価値を最大化することを目指しています。

GIEへ進化していくためには、国や部門の枠を超えてコラボレーションを行い、新たな価値を生み出せるリーダーとなる人材の育成が不可欠です。IBMは2007年、「Global Citizen's Portfolio (地球市民のポートフォリオ)」を発表し、社員がグローバルなリーダーとして、専門家として、そして良き地球市民として活躍するためのスキルや専門知識の強化を進めています。

三つのメリットを併せ持つ ユニークなプログラム

Corporate Service Corps (以下、CSC)は、そうし

た人材育成のための施策の一つです。アジア、東ヨーロッパ、アフリカ、南米の新興国に社員を派遣し、NGO (非政府組織)と連携して現地の経済や環境、教育分野の基盤構築などの支援を行うプログラムです。社員が有するスキルやノウハウを社会貢献活動に役立てると同時に、参加する社員自身の成長を促し、さらにはIBMとしても社員のグローバルなリーダーシップを育成することにもつながる、三つのメリットを併せ持っています。

選抜された社員は出身国や事業部門が異なる約8～12名で1チームを構成し、1ヵ月間、現地で活動を行います。各自が支援先企業・団体とコミュニケーションをとりつつ、限られた時間の中でどのような貢献ができるかを見定め、解決策を探り、成果を残すことが求められます。

このプログラムで特に重視される点は、全世界の優れた実績を持つ社員同士がネットワークを築く機会を提供することです。日々起こるさまざまな課題にメンバーが互いに助け合い対処していく中で、コミュニケーションや問題解決能力が育まれます。また、異なる文化的背景や伝統を持つ人々との相互理解を深め、さらには世界の動きを感じ取る力を養うことにもつながります。



堀川 博史 (GBS. 金融デリバリー . 第二開発部)

【派遣先】 ルーマニア プロイェシュティ
【メンバー構成】 アメリカ、カナダ、インド、台湾、オーストラリア、南アフリカ、エクアドル、ベネズエラ、日本

【活動内容】

ICERPという石油化学製品の製造・販売会社に対し、REACH (新化学物質規制) に従った化学物質の申請登録を目標とする、プロジェクト管理計画の立案と管理方法のレクチャー等を実施。

【感想】

- 予期せぬ変更が続いたり、プロジェクト管理の重要性や効果を理解していただく点で苦勞しました。しかし時間をかけてスコープを定義し、随時丁寧に説明を重ねることで、信頼が深まっていくことを実感しました。
- メンバーとは、1ヵ月間で想像以上に交流が深まりました。皆が各国に戻った後でも、いつでもつながっているようで、以前よりも「世界が小さくなった」ように感じます。加えて、多国籍チームで活動する際には、日本人の強みをアピールすることの重要性も感じました。



活動を通じて得られる 新たな発見と自信

2008年、CSC第1期として33カ国100名のメンバーが選抜され、ルーマニア、トルコ、ベトナム、フィリピン、ガーナ、タンザニアに派遣されました。日本からは5名が参加し、同年7月からルーマニアとタンザニアで活動を行いました。（そのうち2人の活動内容を下に紹介）

現地では、高い成長性を持つ起業家に対するビジネス・トレーニングの提供や人脈づくりの支援、国際的マイクロファイナンス（低所得者向け小規模金融）機関に対する支援などを実施しました。タンザニア・ツアー・オペレーター協会のウェブ・サイトを刷新し、ツアー・オペレーターのインターネット活用をサポートするなど、さまざまな成果が上がっています。

第1期のメンバーは皆、支援先企業・団体に対する貢献活動とチーム内のコミュニケーションから多くのことを学んだと語ります。見知らぬ土地で、限られた時間の中で、自身の決断によって道を切りひらくことの重要性や、メンバーとの交流から解決策が生まれること、さらにはメンバーの背後にあるグローバルIBMとのつながりなどを強く感じたようです。活動後の感想からは、「海外とのやりとりに対するハードルが低くなった」、「従来は大きな境界を感じていた国や組織という枠を超え、ダイレクトに世界のIBMにつながっていると実感した」など、新たに得られた発見と自信が伝わってきます。

かけがえのない経験を 未来を形づくる原動力に

今後、ビジネスのグローバル化はさらに進みます。CSCで手応えをつかんだメンバーたちは、今度は職場で自らが中核となってグローバルなプロジェクトを動かしていくことが期待されます。

第1期のメンバーは、活動内容の社内へのフィードバックを終え、その成果や思いは第2期のメンバーに引き継がれました。2009年の第2期、日本からの参加メンバーは9名に増え、派遣先もガーナやブラジル、南アフリカへと広がります。

未来を形づくるGIE時代のリーダーたちが今、着実に育っています。



社長の橋本を囲む、CSCの第1期および第2期のメンバーたち



師子堂 洋司

(ITデリバリー・FSS、サービスマネジメント、銀行第二システム)

【派遣先】タンザニア アルーシャ

【メンバー構成】アメリカ、イタリア、ニュージーランド、ドイツ、コスタリカ、日本

【活動内容】

KickStartという足踏み式ポンプの開発販売を行うNGOに対する、システム（コールセンター、在庫管理、営業支援システム）に関する提案。週末にはメンバーと協力して、現地の小学校での特別授業なども実施。

【感想】

- タンザニアでは海外の支援団体も援助を行っていますが、一旦援助がとぎれると、すぐ元に戻ってしまい、インフラや教育への援助の効果がなかなか根付かないようです。優秀な人は国外に出てしまい、自国の発展や自立に寄与していないところなど、非常に考えさせられました。
- グローバルな活動体験とボランティアの両方を経験できました。メンバーとは対等なコミュニケーションができ、国や所属部門にかかわらず、互いの得意分野を出し合ってプロジェクトに貢献できると実感しました。

CSRの取り組み

基本理念

すべてのIBM社員はIBMers Value（IBMの価値観）を共有し、それに基づいて日々行動しています。

2003年、全世界のIBM社員が参加してIBMの価値観についてウェブ上で3日間にわたって議論を行いました。その結果が集約されてまとめ上げられたものがIBMers Valueです。

振り返って見れば、IBMでは、創業者のトーマス・J・ワトソンSr.によって定められた、「個人の尊重」、「最善の顧客サービス」および「完全性の追求」の三つから成る基本的信条が長年受け継がれてきました。

また同様に創業以来の理念として、「良き企業市民たれ（IBM should be a good corporate citizen）」という考え方が根づいています。これは、企業は社会の一員であり、公共の利益のために貢献すべきである、という考え方です。

このような基本的信条および企業市民という長く受け継がれてきた伝統を基礎として、時代や市場の変化に対応した新たな価値観としてまとめ上げられたものがIBMers Valueです。

IBMの核心となる価値観であるIBMers Valueは、IBMの企業文化およびブランドの基礎を成すとともに、すべてのIBM社員の仕事や意思決定についての指針となっています。

CSR活動の展開

IBMでは企業市民およびCSRの活動を社全体にわたって取り組んでいます。環境への取り組みをはじめ、職場の安全衛生、お取引先とのかかわりなどにおいて、さし迫った課題の解決に向け、広範なイノベーションの資源と専門知識を活用しています。

IBMはグローバルに統合された企業（GIE）への変革を進めていますが、その一環としてCorporate Service Corpsなど新たなプログラムもスタートしました。また、2008年に新たなビジョンとして「A Smarter Planet」を発表しました。これは世界のさまざまな問題を解決し、より「スマート」な地球に向けて貢献していくというビジョンです。その実現に向けて具体的な活動が進められています。

日本IBMのCSR活動には、

- ① インテグリティ、リスク・マネジメント、情報セキュリティに関する取り組みなど、企業経営の基盤であって、信頼を高めるための活動
- ② 働きやすい職場づくり、リソースを活用した社会貢献、お客様の環境問題解決への貢献など、企業としての魅力を高め、また本業を通して社会の課題解決に貢献し、社会に対して新たな価値をもたらす活動があります。

今後とも①の活動をたゆみなく継続するとともに、②の活動に積極的に取り組んでいきます。

IBMers Value

- **Dedication to every client's success.**
お客様の成功に全力を尽くす
- **Innovation that matters for our company and the world.**
私たち、そして世界に価値あるイノベーション
- **Trust and personal responsibility in all relationships.**
あらゆる関係における信頼と一人ひとりの責任

日本IBMのCSR活動

